

令和3年度森林・林業白書の総括

1. 閣議決定・公表までの経緯

(1) 令和3年度白書では、冒頭のトピックスにおいて、「①2050年カーボンニュートラルを視野に「グリーン成長」の実現を目指す森林・林業基本計画」、「②「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の施行～「ウッド・チェンジ」に向けて～」、「③「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録」、「④令和3年7月、8月に発生した大雨による山地災害等への対応」を紹介・解説した。

特集1では、「令和3（2021）年の木材不足・価格高騰（いわゆるウッドショック）への対応」をテーマとし、製材等の輸入量の減少、輸入木材・国産材の価格上昇等の状況を整理し、輸入材から国産材への転換や国産材の安定供給に向けた取組について記述した。さらに特集2として、「グリーン成長のカギを握る木材需要拡大と木材産業の競争力強化」をテーマとし、建築分野における木材利用の動向、製材工場の大規模化等の木材産業の競争力強化等について記述した。

(2) 昨年9月の林政審議会で諮問し、その後、計3回の施策部会において御審議いただき、本年4月の林政審議会において、その結果を受け林政審議会議長より答申が行われた。5月31日に閣議決定の後、国会提出を行い、公表した。（別添1）

2. 閣議決定・公表後の動き

(1) 報道

日本経済新聞や共同通信の配信では、木材自給率が4割台に回復したことや、特集1を中心にウッドショックの要因や国産材の安定供給の重要性が紹介された。同様の記事が産経新聞や複数の地方紙において掲載された。

林業・木材産業の業界紙等においては、特集2を中心に取り上げられており、木材需要拡大と木材産業の競争力強化の課題と対応等が紹介された。(別添2)

(2) 広報・普及

閣議決定本の配布、市販本の出版、解説記事の投稿等を行った。

また、林野庁企画課の担当者等が説明会において、現時点で計39回(うちオンライン12回)、約1,760名に白書の概要についての説明を行った。

今後、ディスプレイ広告やYouTube等のSNSを活用した広報も実施予定。(別添3)

(3) 主な評価

説明会でのアンケート調査等では、日本の森林や林業の現状を知ることができて良かったという評価が多く見られた。(別添4) 具体的な評価については以下のとおり。

- ・ ウッドショックの動向などなかなか世間では取り上げられない内容の説明があり、今どうなっているのかを知ることができた。
- ・ 木材需要が大きく高まっており、それを後押しする体制を整えていることがわかった。
- ・ CNF や改質リグニンなどのマテリアル利用まで紹介されており、国産材の需要拡大に期待できそうだと感じた。

令和 3 年度森林・林業白書の
閣議決定・公表までの経緯

令和 3 年 9 月 9 日 林政審議会

(諮問)

第 1 回施策部会

- ・作成方針(案)の検討

12 月 6 日 第 2 回施策部会

- ・令和 3 年度森林及び林業の動向
(構成(案)、主要記述事項(案))

令和 4 年 3 月 10 日 第 3 回施策部会

- ・令和 3 年度森林及び林業の動向(原案)
- ・令和 4 年度森林及び林業施策(原案)

4 月 19 日 林政審議会

- ・令和 3 年度森林及び林業の動向(案)
 - ・令和 4 年度森林及び林業施策(案)
- (答申)

令和 4 年 5 月 31 日 閣議決定・国会提出・公表

令和3年度森林・林業白書に関する主な報道について

紙名	日付	記事の概要
日本経済新聞	5/31	<p>【木材自給率、4割台に回復 森林・林業白書 2020年、半世紀ぶり輸入停滞や燃料需要増で】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年の木材自給率は前年比4ポイント上昇し、41.8%となり、48年ぶりに40%台に回復したことを紹介。国産材活用の拡大、バイオマス発電燃料の需要増加が影響したと分析。 ・「ウッドショック」も重点的に取り上げ、「国産材の安定供給・安定需要の確保に取り組むことを通じて、海外市場の影響を受けにくい需給構造を構築することが重要」と主張したと説明。
毎日新聞	6/1	<p>【国産材安定供給 高騰受け「重要」 森林・林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウッドショック」を受け、国産材の安定供給が重要と指摘。20年の木材自給率は10年連続上昇の41.8%で48年ぶりに4割台を回復したが、今後も輸入材から国産材への切り替えを進め、海外市場の影響を受けにくくするよう促したと説明。 ・新型コロナウイルス禍からの経済回復で、米国では住宅着工数が増えて木材需要が拡大。世界的なコンテナ不足で海上輸送費も上昇し、輸入木材価格が急騰、国産材の価格も上がったと報告。 ・国産材の安定供給のため造林から製材、住宅メーカーまで幅広い連携強化が必要と明記。
共同通信 (電子版) ※同様の記事が、産経新聞及び10社以上の地方紙(北海道新聞、大阪日日新聞、宮崎日日新聞等)に掲載	5/31	<p>【国産材の安定供給促す ウッドショックで林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウッドショック」を受け、国産材の安定供給が重要と指摘。20年の木材自給率は10年連続上昇の41.8%で48年ぶりに4割台を回復したが、今後も輸入材から国産材への切り替えを進め、海外市場の影響を受けにくくするよう促したと説明。 ・コロナ禍からの経済回復で、米国では住宅着工数が増えて木材需要が拡大。世界的なコンテナ不足で海上輸送費も上昇し、輸入木材価格が急騰、国産材の価格も上がったと報告。
時事通信 iJAMP	5/31	<p>【木材自給率、48年ぶり4割超＝コロナも影響―林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年の木材自給率が前年比4.0ポイント上昇の41.8%になったことを紹介。国産材の供給量が増加傾向にあるほか、住宅着工が減ったことも要因と分析。 ・脱炭素化に向け、「木材需要拡大と木材産業の競争力強化がカギを握る」と強調。中高層建築物での木材需要の拡大や、直径が大きい原木を加工する工場の整備などを進めると説明。
北海道建設新聞	6/1	<p>【国産材へ転換、安定供給も 21年度森林・林業白書決定 政府】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウッドショックへの対応をテーマとし、輸入材から国産材への転換と、国産材の安定供給に向けた取り組みを盛り込んだことを紹介。 ・林業の振興については、脱炭素と経済成長を両立する「グリーン成長」を目指すことを紹介。住宅以外の中高層建築物で木材利用が拡大していることを明記し、建築主と国・地方公共団体が木材利用に関する協定を結ぶ制度を通じて木材利用の機会を増やしていくと説明。

令和3年度森林・林業白書の広報・普及について

1. 閣議決定本の配布

閣議決定本を3,000部印刷して、国会に提出(約110部)するとともに、関係府省(約110部)、都道府県(約290部)、都道府県立林業研究機関(約50部)、国会図書館(25部)、都道府県立図書館(約110部)、市立図書館(政令市のみ)(約40部)、林業関係団体(約370部)、林業系高校(約70部)、大学・短期大学等(約70部)等に配布。

また、農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載。8月にHTML版を掲載(令和2年度白書のトップページのアクセスは公表後1年間で約5万4千件)。

2. 市販本の出版

広く一般向けに周知することを目的に、印刷・出版の要望があった者に対し出版許可を行い、市販本計5,000部を出版・配布。

- ・ 一般社団法人全国林業改良普及協会：5,000部

3. 説明会の開催

地方農政局、都道府県、大学、林業大学校等に、林野庁企画課の担当者等が直接赴き、又はWEB会議形式にて、現時点で計39回、約1,760名に対して、森林・林業白書の概要を説明(大学等の説明会では、自由記述のアンケート調査を実施)。

(1) 4白書合同説明会

全国の地方農政局等において、農・食・林・水4白書の合同説明会を開催。都道府県、市町村、林業関係者等を中心に、計9回、約550名が参加。

北海道農政事務所(7/15)、東北農政局(7/29)、関東農政局(7/7)、北陸農政局(8/10)、東海農政局(8/3)、近畿農政局(7/28)、中国四国農政局(中国ブロック)(7/29)、九州農政局(8/1)、沖縄総合事務局(8/23) ※中国四国農政局(四国ブロック)は9/15を予定。

(2) 都道府県での説明会

全国の都道府県において、主に会議や研修の一環として、白書説明会を開催。職員等を中心に計6回、約300名が参加。現在、1県と調整中。

福島県(7/20)、石川県(8/5)、静岡県(9/2)、和歌山県(7/13)、長崎県(8/25)、鹿児島県(7/29) ※埼玉県は9/9、滋賀県は9/16を予定。

(3) 大学、林業大学校での説明会

全国の大学等において、主に講義の一環として、白書説明会を開催。農学部等の学生を中心に計 20 回、約 850 名が参加。現在、1 校と調整中。

北海道大学（7/21）、秋田県立大学（7/6）、岩手大学（7/19）、筑波大学（7/25）、宇都宮大学（7/21）、東京大学（6/23）、東京農業大学（6/30）、東京農工大学（7/14）、日本大学（6/29）、新潟大学（7/12）、静岡大学（7/21）、三重大学（7/20）、京都府立大学（6/30）、近畿大学（7/12）、岡山大学（7/27）、高知大学（7/4）、九州大学（7/25）、宮崎大学（7/21）、鹿児島大学（7/19）、琉球大学（6/24）※東京環境工科専門学校は9/14を予定。

(4) その他の説明会

以下の組織・団体等において白書説明会を4回開催。約60名が参加。

林政ジャーナリストの会（6/24）、全国森林レクリエーション協会（6/30）、製紙連合会原材料部（6/21）、化学工学会（6/23）

4. 紹介記事の投稿

森林・林業関係誌等に、白書の紹介記事を投稿。

- ・「林野-RINYA- 6月号」（林野庁広報室）
- ・「森林と林業 6月号」（日本林業協会）
- ・「森林組合 7月号」（全国森林組合連合会）
- ・「山林 8月号」（大日本山林会）
- ・「森林技術 7月号」（日本森林技術協会）
- ・「農林水産省 公式ツイッター」（大臣官房広報室）
- ・「林野庁 公式フェイスブック」（林野庁広報室）

5. その他の情報発信

農林水産省「消費者の部屋」において、森林・林業関連図書と併せて白書を紹介する展示を実施。

本の森に出かけよう～森のめぐみと白書の知識、山の仕事～（8/29～9/2）

農林水産省公式 YouTube チャンネル「BUZZ MAFF（ばずまふ）」において、農・林・水の3白書合同による白書紹介動画を公開予定。

広告用コンテンツを制作し、Yahoo!JAPAN と Google において、ディスプレイ広告を実施予定。

（以上）

令和3年度森林・林業白書に対する主な評価

1. 全般に関するもの

- ・ 社会の移り変わりが速くなっている中で、日本の森林や林業の現状がどのようになっているのか、また、そのような社会の中で森林や林業のあるべき立ち位置について 分かりやすく示されている。
- ・ 日本の森林について、生態系や、林業的側面、建築としての森林、東日本大震災後の林業が今どうなっているのかなど、さまざまな側面から森林について考え、学ぶことができた。
- ・ 日本の材は伐られずに余っているという印象があったが、国産材の供給が需要に追いついていないという現状が印象的だった。林業従事者が増えれば林業も盛り上がるのではと思う。
- ・ 毎年、注目すべき点が異なったり、増えたりしているが、基本的な事象に時事問題を重ねたことが多く書かれていることが印象的だった。
- ・ 項目が章ごとに綺麗にまとめられていて読みやすかった。また、グラフや図の大きさや色使いが見やすく、文章の邪魔になっていないところが良い。
- ・ 具体的な数字や過去の数値もグラフとして書かれていて非常に分かりやすい。

2. トピックスに関するもの

- ・ 2050年カーボンニュートラルに向けたグリーン成長実現の取り組みとして紹介されていた都市部における第2の森林が印象に残った。加えて、木材利用の促進に向けたウッド・チェンジとして、様々な企業が木材利用を高めていることを知った。このような国と民間企業が協力して行われている取り組みに興味を持つことが出来た。
- ・ 世界自然遺産への登録はとても興味深かった。山原は他の自然遺産と違い人の生活や産業と共にある自然遺産としてユネスコが認めたということは知っていたが、保全に思考が偏りがちだったので、利用と保全のバランスを考えるとということが重要であると感じた。
- ・

3. 特集に関するもの

- ・ 特集1のウッドショックのお話は、コロナが林政に与えた影響がよくわかった。

- ・ ウッドショックの動向などなかなか世間では取り上げられない内容の説明があり、今どうなっているのかを知ることができた。
- ・ 住宅の1、2階はほとんど木造だが、3階以上になると、木造の割合が低いことがわかり、今後の中高層建築物が新しい法律により、木造になると考えたらとても楽しみだと思った。
- ・ 白書の概要の特集に記載された「グリーン成長」という言葉が気になり、興味をもてるキャッチフレーズだが、具体的な説明がなかったので定義を記載してほしい。

4. 通常章に関するもの

- ・ 木材需要が大きく高まっており、それを後押しする体制を整えていることがわかった。これから供給を増やしていくなかで、新しい林業の在り方についてよく調べておく必要があると感じた。
- ・ 国産材の活用法で、木材や木質バイオマス以外に、CNF や改質リグニンなどのマテリアル利用まで紹介されており、国産材の需要拡大に期待できそうだと感じた。
- ・ 森林サービス産業のような山村でマウンテンバイクや、フォレストアドベンチャー等がもっと普及してほしいと思った。

※大学等の白書説明会におけるアンケート調査より抜粋